

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
①新市建設計画	新しい計画を聞かせてもらっているが、古いものも大事である。高尾に古い体育館があるので補強をお願いしたい。危険個所の対策を早急に講じられたい。	要望を確認して適切に対応したい。
①新市建設計画	市街地の賑わいづくりは大事なことだと感じているが、青山支所周辺の賑わいも大事であると考えており、青山支所周辺の賑わいづくりの検討について、支所の移転について平成31年度で予算化すると聞いているが今後どうしていく予定となっているか。新市建設計画の変更は議決事項か。	青山地域の複合施設については、新年度予算で要求する予定となっており、3月議会にかかる予定。賑わいづくりという点についてはどこまでいくかわからないが、事前に各自治協をまわった際に、北部公園の体育館を取り壊して、その場所に複合施設を建て、その中に支所、市民センター、地域包括支援センター、公民館図書室などが入る予定となっている。今の支所の位置には公共交通がすべて通っているわけではないため、駅に近づくことで青山地域の公共交通がすべて集約される場所にしたいと考えている。将来の高齢化に対処するため公共交通を有効に活用するために北部公園の場所に整備したいと考えており、平成31年度については体育館の解体費用などを計上しながら地域の意見を聞いて回りたい。
①新市建設計画	新市建設計画の延長に関して、東日本大震災等の「等」の部分に該当するため延長することになっていると思うが、我々の地域としても今後起こりうる災害に対しての対策を切望しているがなかなか予算がつかず災害復旧ができていない点を対応願いたい。	新市建設計画について、財源を災害復旧にも使えるかということであったかと思うが、補助対象については資料のとおりで、合併特例債を様々な事業に充当してきて、465億円あった特例債の残額がソフト、ハード事業合わせて約42億円が残っている状況になっている。使途の事例として新庁舎、汚泥再生処理センター等がある。特例債は当初合併10年間の予定が東日本大震災によって5年延長され、さらに5年延長された。しかし特例債を使うには新市建設計画を変更する必要があり、発行可能額の42億円を考えると2年間で使う予定としている。この中で実施する事業計画として様々な事業があるが、消防・防災面の充実に関しても充当することができる。詳細に決まっているわけではないが、方向性としては活用可能と考えている
①新市建設計画	合併特例債のメリットはどの程度あるのか基本的なことを聞きたい。返済計画は？	特例債について、行政の事業は起債を起こして長期の償還計画を立てる。合併特例債は95%の算入率があり、そのうち70%交付税として市に返ってくるため、実際には1億円の事業で6,650万円が支援されることになる。借金なのでなるべく使わないに越したことはないが、大きな事業が計画としてあるため、できるだけ有利な起債を使いたいと考えている。
①新市建設計画	建物どうこうではなく、いきいきと生活できるようにという対象は旧上野市にお住まいの方に向けてではないのか。郡部に住む者にとってはさんさんホール、柘植公民館、ふるさと会館いがホール、いがまち公民館などが次々と閉鎖され、頑張る場所がなくなっているのではないか。私たちが頑張るところはそうした場所にある。ハイトピア伊賀などに行けばいいという意見も聞くが、私たちが望んでいるのは、地域に住んでいる方たちがお互いに文化に触れあいお互いに高めあう、きずなを深めあうことであり、地域にとっては非常に大切な部分。ふるさと会館小ホールでは小さすぎ、いがまち公民館では3地区で1年間かかって作った作品の展示会をやっている。それがここでできなくなると中学校の体育館などでやれと言われるが、3地区が集まってできるところがなくなってしまう。いがまち、阿山などに地域の方の集まる場所がどうなるのかを伺いたい。	文化に対する熱意を感じる。そうした熱意を表現する場所がここしかないということではなく、上野市、郡部というが今は伊賀市民であり、上野、郡部という区別はない、伊賀市民として伊賀市全体で考えるべきである。ふるさと会館いがについてもつぶすのではなく休館ということにしており、活用方法としていい方法があれば次の使い方を考えようということになっている。伊賀市民が一体感をもってこれから進んでいきたい。地域のみなさんにとっては理解、納得しにくい部分もあるとおもうが、みなさんと様々な工夫をしていきたい。
①新市建設計画	新庁舎ができたが柘植の端に住んでいるものにとってはあまり関係ない話であるが、蓋を開けたら伊賀鉄道に職員が乗らず、車通勤が多いと聞いている。合併以降、小さな本庁、大きい支所という言葉があったが、逆にならないようお願いしたい。南庁舎で賑わいを取り戻そうということはいいいことである。DMGと協定を締結したという記事もあるが、郡部の賑わいも大事だと思う。DMGだけでなく、サンガリアなどもあるので有効に使ってほしい。以前市長が京都のお客さんを伊賀に連れてきたいと言っていたが、複線電化を単線電化という方向性にしてはどうか、亀山ー加茂間は複線電化は無理なので単線電化でいいではないか。柘植駅は寂れている。自治協で検討しているが、滋賀県から補助金をもらっているおかげでトイレを直したり、利用促進に向けた取り組みをしている。柘植駅は関西線の始点であり、ここをしっかりと整備するのに特例債を活用いただきたい。	四十九駅ができ、職員が何人利用しているのかということについて、37人が利用している。さらなる利用促進に向けて居住地を調査し、最寄り駅から1キロ以内に居住するのが77人、うち37人が鉄道利用している。他の方については子どもの送迎、買い物など通勤だけではない日常の課題も抱えている。複線電化については、「進める会」から「活性化」という文言も加えて検討を進めている。 電化促進については利便促進のために言っているのであり、一番大事なのは乗り換えなしで行けることが望ましい。JRにも短い期間なので、工夫して直通で行けるようにできないかも申し上げている。DMGの話もあったが、具体的にはこれからになるが、この地域は大きく変わっていくだろうと思っているし、何が重要かということについてはみなさんの意見も伺いたい。

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
①新市建設計画	<p>新庁舎に行ったが立派だった。ポストが人を作るという言葉があるが、建物が人を作るという言葉に期待したい。富山県氷見市の庁舎がガラス張りですっきりとした庁舎ということを知り、市長室に行くといやがかり、開かれている感じがしない。食堂にも行ったが空席があった。事務席で食事を摂っていたり、カップラーメンをもって歩いている職員もいた。職務中なのか休憩中なのか分からない。話は変わるが伊賀市の封筒に人が輝く、地域が輝く伊賀市とあるが、郡部のものにとっては人が沈む地域が沈むと感じてしまう。勇気と覚悟が未来をひらくというキャッチフレーズは誰に向けて発信されているのか。いがまちの場合、新しいものを建てることなどなく、すべてつぶされてきている。</p>	<p>内覧会においていただきありがとうございます。ご覧いただいたように極力経費を抑えて作っている。㎡あたり35万円、他市の庁舎は45万円程度となっている。また、伊賀地域初の免震構造となっており安心安全を発信していきたい。市長室に壁があるとのことであるが、動線を整理したと聞いている。昼食についても発言があったが、窓口業務以外は自席で昼食を摂らせてもらっている。市民に迷惑にならないよう申し渡しているところである。人が輝く、地域が輝くということであるが、ガバナンスということであり、行政、自治協、個人がそれぞれ持てる力を寄せ集め、ひとつになってがんばらないと地域がよくなるということであり、すべての人、地域に向けたスローガンであると理解いただきたい。勇気と覚悟をもって優先順位をつけ、今やらなければならないことをやり、我慢することもあるということである。市民も行政も含めて通底するものである。伊賀市は対等合併をしており、地域に格差を設けていない。旧青山町についてもシステムを統合できるようにしていきたい。伊賀市が合併した際に我慢してきたということで、建物を建てるのがすべてではない。そのことイコール郡部軽視ではない。</p>
②キラっと輝け！地域応援補助金	<p>新しい地域応援補助金に事例を示してくれているが、その財源は自治協への交付金をカットして財源としているのか、新しい財源を確保しているのかを教えてください。</p>	<p>地域包括交付金の質問について、昨年度は1億7400万円だったが、1億6600万円です。4.6%を削減予定と考えており、地域支援補助金はその削減分と④その他の財源から1,000万円程度とし、全体としては増額となると考えている。人材育成やコミュニティビジネスなどが対象になるので、積極的に活用してほしい。</p>
②キラっと輝け！地域応援補助金	<p>(財源について)次年度はプラスかもしれないが、2年後はマイナスになるのではないかと。目先ではなく先のことも教えてください。補助金が採択された場合、3年分の保障となるのか。</p>	<p>補助金は単年度交付が原則です。5年間で33%減少となっているので、地域包括交付金は減額の方向性で検討している。地域については防犯灯のLED化など新しい仕組みを考えており、LED化が進めば自治協としても電気代が削減されて地域で使えるお金が増えることにはなると考えている。LED化は4割弱と聞いているので、積極的に支援したいと考えている。(制度設計はこれから)</p>
②キラっと輝け！地域応援補助金(地域振興補助金)	<p>直接関係ないかもしれないが補助金に関連して、地区振興予算補助事業に関して平成27年3月に振興予算補助金交付要綱ができて、それまでも類似事業があったが、各事業の実情に応じた制度ができています。補助率は2分の1になっています。青山地区では青山振興計画に基づいて自治協が協働して事業に取り組んできたが、要綱では平成30年度末で終了となっているが、この事業の継続を強く望む。終了する場合はその理由、地区振興計画の在り方も含めて十分な説明をお願いしたい。</p>	<p>地区振興補助金については2019年度をもって一定の見直しを進めることとなっている。すでに活用していただいている地域については、支所を通じて説明もしているが、今日は詳細を回答できないが、検証せよとのことであるので何らかの回答をしたいと考えている。</p>
②キラっと輝け！地域応援補助金	<p>昨年8月、11月に新聞で見たが、自治協への交付金が削減されるとあり、本来の趣旨以外に3割もの交付金が使われていたことが判明したとあったことが、具体的に知りたい。新聞にがんばる自治協を応援するとあったが、がんばるための担い手もないし、地域としては大変な状況の中でがんばれと言われても難しい。実態をわかってくれているのか。お金を出してくれるなら出してほしいが、協働という言葉が押し付けに思えてくるので、具体的にどうやって進めていけばいいのか教えてください。介護関係について、介護従事者のなり手がいない。介護保険の運営は今後もやっていけるのか教えてください。(少し趣旨に反するかもしれないが…)</p>	<p>地域包括交付金については、平成27年度から3年間の予定で増額をしているが、増額については3年間と期限を切り、その後見直すことは皆さんに伝えてきた。今回見直しを行うにあたり、他の類似団体の交付額等を勘案し、これまでの支援は他市より多かったため、当初40%を3年間で削減することで地域に説明してきたが、地域からも多くの意見をいただき、全体的に交付するより活動に対する支援を充実させてほしいということもあったことから、包括交付金の減額を3年間で33.5%に緩和し、加えて活動型の補助金として今回の制度創設を考えてきたところ。新聞報道で使途が適切でない地区があるとあったが、具体的には包括交付金のおよそ3割が各自治会の支援(報酬等)にまわっていた例があった。本来は自治協活動に対して交付されるものであることから、それが全く悪いというわけではないが、報道でそういう風に書かれた経緯がある。市としては包括交付金という趣旨から使途が悪いということを行っているわけではない。</p> <p>地域包括交付金について、自治協へのアンケートの中で担い手不足が課題であったことから、テーマ設定型の項目とした経緯がある。3年間継続的に行う中で、担い手の発掘や外から呼んでくることなどを地域で検討していただきたい。これに加えて持続可能な自治協を目指してコミュニティビジネスに関する項目をテーマに据えている。具体的には制度が動いていく中で検討されるもので、ともに考えていきたい。介護職の担い手解消対策に関しては、市独自で考えられるものではないが、必要であると考えている。</p> <p>地域の担い手不足を認識しているかという質問であったと思うが、定年が延長されようとする中で、地域の担い手が育ちにくい状況であることは地域を回る中で認識している。市としても若者会議を立ち上げて、若い人に地域づくりや市政などに関心を持ってもらうことにより、地域での担い手になってほしいという思いから活動をし、現在59人が参画してくれている。そうしたことで担い手不足の一助となればよいと考えており、市としても危機感を持っている。</p>

項 目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
②キラッと輝け！地域応援補助金	地域包括交付金について、一度説明に来てくれた時から変わっているようであるが、1自治協当たりの金額が増額となっている。組織の大小がある中で、均等割りが増額になることに不満がある。	自治協を回って説明をする中で、均等割の増額を願う声が非常に多かったことから、均等割が増額となった経緯がある。65万円⇒67万円 人口割を多くすると面積に見合わず、均等割や面積割で地域の基本額を確保するようにしている。
②キラッと輝け！地域応援補助金	過疎地に対しては理解できるが、1自治会が1自治協のところもあり、それは今までの自治会活動と同じであるのに均等割が出ているところがあることに納得がいかない。	地域性があり、島ヶ原については1自治協に対して1支所があるなど多様な形態がある。行政がすべてを決めるより、地域の実情を聞かせていただく中で制度を見直していきたい。
②キラッと輝け！地域応援補助金	自由形提案事業について聞きたい、またこれらは併願が可能か。	地域活動支援事業補助金についてはこれまでも行ってきたが、今回の支援制度創設により市民活動団体に絞り、キラッと輝け！地域応援補助金の方で自治協支援を行うこととした。
②キラッと輝け！地域応援補助金	多面的支払事業による農業をやっている。自由提案型の中に環境保全と書かれているが、これを有効に活用できるのか。	国県の補助金を使っている場合、併用はできないと考えている。この事業における環境保全については、対象が自治協であることから、住環境などで地域で困りごとのある場合などに支援したいと考えている。
②キラッと輝け！地域応援補助金	多面的支払事業による農業をやっている。自由提案型の中に環境保全と書かれているが、これを有効に活用できるのか。	多面的は自治会、キラッと自治協になるので対象が異なる。自治協全体で実施するのであれば可能性はないとは言えない。
②キラッと輝け！地域応援補助金	ガイドラインなどができれば示してほしい。	そのように対応するし、個別の対応については相談いただきたい。
②キラッと輝け！地域応援補助金	地域交付金が削減される代わりに新たに創設されたものであると思っているが、テーマとして人材育成と書かれているものが、壮大で難しいテーマだと感じている。本当に人材の育成につながるような青少年や高校生、ご年配の方など様々なことがあるので、活用例としてはもう少し本当に使われるべき活用例があるとありがたい。	昨年度、市街地において天神祭で子供たちにお囃子を教えたりすることに対して国の補助を受けて実施したことがあり、将来のお祭りを担っていただくための事業を実施した。例としては適切ではなかったかもしれないが、実際の汎用は地域の工夫で広がっていくものと考えている。
②キラッと輝け！地域応援補助金	コミュニティビジネスについて、名称、介護保険、ヘルパーとの競合、プライバシーの問題などが心配されるがいかがか。	それぞれの制度については、実際の申請の際に個別に聞き取りなどをしてケースバイケースで進めていくことになる。介護保険と重複するような部分は想定しておらず、対象外となる日常サポートを対象としているイメージで考えていただきたい。 例示をしているので、モデルのように思われるかもしれないが、実際には地域によって課題は異なり、実際に対象になるのかどうかといったことについては、担当に相談いただきたい。これに拘泥していただかなくて結構で、様々な事例を検討いただきたい。
②キラッと輝け！地域応援補助金	地域応援補助金について聞きたい。平成30年7月に地域包括交付金の見直しということで3か年で激変緩和措置を取りながら、平成34年で36%減少という案が出され、その後いろんな意見があり、平成30年11月に第3次見直しの中に地域応援補助金が出てきた。突然である感は否めないが、激変緩和が5年となった。平成31年3月頃に説明回答を通じてご案内すると明記されているが、もう2月の半ばとなっている。資料としては唐突に出てきた感があるし、地域の中で検討する時間もあまりないように思うが、実際に説明会は行われるのか、また、補助制度の終期をいつまでと考えているのか。	平成31年度から制度運用を考えており、新たな制度であるため、予算成立後に説明会をしたいと考えている。3月22日が議決の日につき、その後日程をお知らせする。昼の部、夜の部などに分けて説明会を予定している。 包括交付金の見直しの説明の際に、地域支援活動事業補助金の利用が減ってきて、中身として審査が厳しい、事後報告会をしなければならないといった使いにくい支援だったという批判をいただいた。そんな中でもがんばっている地域は支援してほしいという声もいただいていることから、キラッと補助金を創設した経緯がある。具体的な要綱や具体的な活用例、マニュアルを作成中でようやくまとまりつつある。日程的には先ほどのような3月末となるが、これまでの補助金より使いやすく、地域の課題解決に使いやすい補助金となるよう工夫をしていきたい。
②キラッと輝け！地域応援補助金	自治協としても組織再編の時期であるので、新年度のほうが効果的ではないかと思うので、配慮願いたい。先ほども聞いたが、いつまでこの事業は続くのか。	今回の制度として3年間継続して取り組める制度になっている。取り組んでいただいた事業が継続するようと考えているが、使い勝手の見直し、予算の都合があり保証はできないが、3年間は継続したいと考えている。
②キラッと輝け！地域応援補助金	包括交付金にかかわって、自治組織の在り方の見直しという文書が出ている。これはたぶん地区へ配布されたものだと思うが、23年度に包括交付金がスタートし、交付金以外の財源として会費、負担金、参加費、コミュニティビジネスといったものがあげられている。自治協ができた当初の方は今いないかもしれないが、今現在の交付金以外の財源について簡潔に説明願いたい。	会費とは、一般的には自治会から自治協に集金されるもの。

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
		<p>自治協を運営していくための収入の在り方については、各自治協によって財源は異なるが、会費とは自治会を通じて自治会費の中に「自治協のための会費」として徴収している地区がある。逆にそれをされていない自治協もある。</p> <p>次に負担金については、会費などを徴収していない自治協が、事業実施の際に自治会から「分担金」といったような形で徴収している地区がある。分担金、負担金という名称が使われている。</p> <p>参加費については、自治協主催の事業に参加いただく方が参加費を払って参加するケース。</p> <p>コミュニティビジネスとは、地域の困りごとを事業化して収入を得ようとするもので、例として今回の補助金制度の中であげたが、ごみ出しや買い物、日常のサービスを事業化して自治協がサービスを提供することで対価を得るもの。地域のコミュニティを守っていくという観点から、少額であっても費用が発生することで継続的にサービスを提供していこうとするもの。</p>
②キラッと輝け！地域応援補助金	<p>受益者負担という形で利用料金をいただくというニュアンスでとらえるが、そうすると地域包括交付金の中で福祉活動を行う場合と矛盾しないか。</p> <p>伊賀市ができてから16年間様々な自治協活動を行っているが、コミュニティビジネスとしての成功例があれば教えてほしい。</p>	<p>地域包括ケアシステムが2月1日号に掲載され、地域の課題を自分事としてとらえようとする動きがあるが、公共が行う事業で対象としているものだけでは地域の課題がすべて解決されるのかということで、少しでもそういったサービスを受けたいと望んでいる方がいるのであれば、コミュニティビジネスという形態はいいのではないかと考えている。</p> <p>共同製作の農作物を地域で販売して収入を得ている地区もある。</p> <p>きじが台に草刈り事業、諏訪の配食サービスなどが事業費を計上している。</p> <p>必要であれば他の事業も調べるが、資料として今持っていない。</p>
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	<p>数点確認したいが1点に絞って力強い回答をもらいたい。</p> <p>南庁舎の利活用について、私自身図書館協議会委員をしていて、1月25日に教育長も出席して協議会が開催された。上野図書館は昭和59年10月3日に開館して、35年が経過している。</p> <p>しかし現状としては10万人の図書館としては分館はあるものの、配架、駐車スペースが必要となっている。</p> <p>教育委員会では新図書館基本計画を作成して、多くの人々が自由に出入りできる交流の場所としての図書館を作ることを目的としている。</p> <p>南庁舎に整備する場合は賑わいに寄与するために再検討するとなっている。この計画から5年が経過するが8月21日に基本計画、基本設計が議会で説明されたが、実施設計の予算が否決され3月議会で再提案されると聞いている。</p> <p>財源として合併特例債が2年延長されるということで、開館はさらに遅れてしまが、この事業を進めるためには議会の理解が必要であるため、早期の完成を目指す市民の期待を裏切らないために勇気あるご決断をいただきたい。</p>	<p>大変心配をいただき恐縮している。</p> <p>ご指摘のとおり図書館計画ができて時間がずいぶん経ってしまっている。新しい図書館が貸し借りだけではなく、若い人たちが伊賀市に残るためには、経済的な支えが必要であるとともに、様々な交流ができる施設があるということが大事にもかかわらず、それが無いということで伊賀市以外に出てしまっているのが現状。</p> <p>そうしたニーズを受け止めて、つなぎとめることが大事であると考えているし、新庁舎への移転も終わっている。空き家になった旧南庁舎はまさに灯の消えた状態となっている。</p> <p>いろんな人が集まって、明かりの絶えない場所にして、様々な機能を入れてゲートウェイとしての機能を果たすことが大事であると考えている。</p> <p>青山には穂月さんの美術館もあるが、そうしたものの発信に使ってほしい。</p> <p>熟考の時期は過ぎており、実行に移すべき。</p> <p>旧南庁舎のリノベーション計画が当初の計画で進んでいけば、マグロ1匹分の経費でできていたので、しっかりとがんばらせてもらいたい。</p>
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	<p>庁舎移転の件で、交流施設は望ましいと思うが交流型の図書館でいいのかという点がある。町家を改装したライブハウス、喫茶店などほかの事例もあるのでもう少し踏み込んだ検討も願いたい。</p>	<p>様々な交流施設が必要であることは確かであるが、空き家を負の遺産として考えるのではなく、資産として活用していくという認識が高まっている。</p> <p>篠山市では城下町ホテルという取り組みをして、空き家を有効に活用している事例がある。伊賀市においても活用可能な資産が多くあるということで、現在検討していただいている。</p> <p>これから東京オリンピック、大阪万博に向けてインバウンドの取り込みも含めて経済基盤を作っていくことで、若い人たちの働く場などを作っていきたい。</p>
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	<p>民間企業で働いてきたが、今の話を聞いて残念なのが市民目線で考えず決めているのではないかなと思う。</p> <p>南庁舎については、一度解体して駐車場にしてはどうか。伊賀市の古いイメージが残ってしまうので、古いものにこだわると新しいものが見えていない。</p> <p>市民の意見を聞かず、残すのはおかしいのではないかい。</p> <p>市役所でなくなったら一度すっきりしてはどうか。新しいイメージが生まれてこない。</p> <p>自治協にとってはお金を削減されてしまう中、もっと自由に使えるお金が欲しい。</p> <p>話を聞いているとなんや変わらんかと思ってしまう。新しい考え方を入れないと伊賀市が廃れてしまう。</p> <p>さるびの、柘植駅、伊賀神戸をターミナルとして周遊させてはどうか、電車ではなくバスで回遊させないとダメではないか、少子高齢化がますます進むと危惧している。</p>	<p>大事なことはあるものはこれからはしっかりと使っていかなければいけない時代になっている。古いものを残すと新イメージが生まれにくいという感性は理解する部分もあるが、少ない投資で大きな効果を得るためにはリノベーションという手法は最適であると考えている。</p> <p>この伊賀市はポテンシャルがあり、ないものねだりではなく、あるモノ探しをして発信していく必要があると考えている。</p> <p>若い人が経済基盤をしっかり築けるようになれば残ってくれる。働くだけではなく楽しむ場所があれば地域に残ってくれるのではないか。実際に若い人たちが生活に満たされない現実をうかがっている。余暇を楽しんだり、勉強したりする場所が今あるかというとなない。</p> <p>高校生たちが勉強するための場所を求めてハイトピアにいる、場所がないということ担保するのが大人の役割だと考えている。</p> <p>繰り返しになるが、最小の投資で最大の効果を目指すべき。</p> <p>新築がいいというが、まちなかから19万人の来館、500人の職員が消えた今、まちの様子が変わっている。駐車場経営や飲食店などは特に実感している。</p> <p>それを回復するために新築しようとする城内であり長期間の発掘調査、解体の費用、新築をしている間にまちなかは疲弊していく。</p> <p>当初の計画で進んでいけばあの場所に新たな賑わい施設ができていたはずだった。</p> <p>三重大学は高等教育機関を設置しようとしてくれているし、交流型の図書館もある、大手コーヒーチェーンもぜひ入りたいと言ってくれている。</p> <p>民間企業としては採算を見込んで出店するので、採算がとれることになっているはずだ。</p> <p>スクラップ・ビルドの時代は終わった。</p>

項 目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
		<p>鉄道、バス交通の話があったが、伊賀鉄道に141万人の利用があった。2億4千万円の負担をしているが、市民1人当たり170円の負担。 大山田行政バスの利用者は年間6,400人、これには1人あたり540円の負担となり、鉄道の方がコストが安く、鉄道についても大事にしていきたいと考えている。</p>
<p>③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>庁舎の問題は市民や議会の理解を得て進めるべきなので、その点をしっかりやってほしい。加えて、農林業をはじめ伊賀市という会社を経営する観点をもってほしい。まず元気がない雰囲気を感じる。市役所の中で意見をしっかり出し合って、議会とのやりとりなども広報紙などで伝わるようにしてほしい。</p> <p>伊賀市の経営を見える化してほしいと考えている。</p>	<p>市政は経営だと思っている。農業、畜産等についても取り組んでいるつもりであるし、東京大阪で販促活動もやっている。 どのジャンルでも後継者が課題であり、地域の素晴らしい産品をしっかりとPRして担い手が育つようにみなさんとともに考え、育てていきたい。 議会にはあと2～3人賛成してもらおうと可決という状況になっている。</p> <p>達成状況を見える化していく。 7、8年で黒字計画を立てている。</p>
<p>③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>市長が当選して身近な職員を異動させたり、意向に沿わないものを異動させたと聞く。明石市の市長は言葉で暴言を吐いた、岡本市長は人事権で職員を黙らせていると私は思っている。これは回答は知らない。 新聞で6,300万円で公衆トイレを作ると載っていた。地域からは何も相談がないまま決まっていると話している。市長はこの件について住民の同意は不要と発言している。いろいろな人の意見を聞きながら、市長当選の際に住民と膝をつき合わせながら事業展開を図りたいと言っていたのに一向にそうになっていない。 次に南庁舎について、議会が解体を議決していて、賑わい創出検討協議会も解体の答申を出しているがその意見を無視して進んでいるのではないか。 私と市長の考えは永遠に平行線なので答えは知らないが、20年～30年後に答えは出ると思う。</p>	<p>思い込みが激しいようであり、話だけ聞いていると市長は大変な悪人のように聞こえる。恐怖政治を敷いたことはなく、適材適所の配置とエキスパートの育成を目指している。ただし、向いていない、失敗をした場合の責任はしっかりと取ってもらうようにしている。逆にこれまで日の目を見なかった職員を異動したということもあった。</p>
<p>③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>市街地の活性化はいつまでにやるのか。</p>	<p>市街地の活性化については可及的速やかに行きたいと考えている。当初のスケジュールであれば完成間近であるが、議会の理解が得られず今に至っている。あと2名賛成があれば進められる状況になっている</p>
<p>③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>トイレの件、7千万円もかけてのトイレは不要。事前に説明を受けてある程度納得はできるが、この件に関して市民に説明はない。市議会を通っているということは議員も賛成していることになるが、市民は納得しない。しっかりとした説明がないと納得しない。 伊賀市の玄関口としては上野市駅だが、上野市駅のトイレはきれいではない。40年、50年変わっておらず水洗でなく汲み取り。国から半分の補助金があるというが、3,500万円もの税金を使う理由をしっかりと伺いたい。 市民の同意を得る内容ではないという発言についても説明をお願いしたい。</p>	<p>トイレの場所についてはまちなかにたくさんの方が来ていただく中でまちの顔としてのスペースを確保しなければならないということで、トイレではなくポケットパークがメイン。 ご指摘のように国からの支援もあるが、公園整備ということで国の支援も得られるもの。㎡単価にすると35万円になるので、そんな高いものではなく将来に対する投資であると考えていただきたい。伊賀に来てよかったと思っていただく広報効果を考えると高いものではない。2020年には4,000万人、2025年には6,000万人のインバウンドがあるという中、上野市駅のトイレ整備もやらねばならないが、これは必要な事業であると考えている。</p> <p>自治基本条例に規定された内容であるが、住民生活に重大な影響が及ぶものが同意事務の対象となるが、トイレの整備は重大な影響があるとは考えていないという解釈である。</p> <p>住民には臭気、防犯などが気になりだと思うが、その点については解決策もお伝えしており、解決は可能であると考えているため重大な影響があるとは考えていない。</p>
<p>③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>新聞にはこれまで十分な討議を重ねてきた点は書かれていない。</p>	<p>現場の自治協には十分回を重ねて説明はしてきたので、自治協の中でガバナンスが働いたかと思う。しっかりと話は聞いてきたと考えている。</p>
<p>③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて</p>	<p>新聞を見て参加した。 南庁舎の機能配置、活用には賛成。 Y O Uの記事にトイレの件と元永さん、榊山さんの作品が三重県の美術館に行ったことが残念だと思っている。南庁舎が完成したら元永さんの絵、伊賀焼、芭蕉の俳句などを展示してください。東町のトイレは大反対。上野出身だがなぜあの場所にトイレなのか納得できない。においがする。各地にトイレがあるが、いずれの場所もトイレを保持するのは難しい。なぜあの場所なのか。 ふるさと会館いがは地域の文化の拠点であり、非常に大切な場所。ここがなくなれば地域の作品展などはどこでやれというのか、代替の場所を示すべきではないか。 近く、自分で歩いて行ける場所に必要であり、できなければ巡回バス、発表の場所の準備などをきめ細かくフォローしてほしい。 組織があって人があるのではない、一人一人が大事にされることのために組織があるということ間違えないでほしい。</p>	<p>おっしゃるとおり地域の積み重ねが大きな力になる。 どのような在り方がいいのかということはこれからご意見をいただきたいと考えている。 元永さんの絵について、市民ギャラリーの提案も喜んでいただけてありがたい。新庁舎は壁面が少ないので南庁舎のように展示はできないが、一部で取り組んでいる。市長室にも飾っているが、個人のためではなく来客を迎えるために飾っているものであり、だれでも見ていただくことができるようにしていきたい。 トイレについてはトイレが独り歩きしているが、あの場所はポケットパークであり、ベンチや桜もある場所である。なぜあの場所なのかという点については、あの場所に市有地（空地）ができたことで有効活用しようとするもので、天神祭等でたくさんの方が来た際、一番困ることがトイレ。まちの方が自分の家のトイレを貸すかというそうではない。臭気、管理などについて地域からも発があるが、課題についてはすべて解決できると説明もしてきており、みなさんが考えるような場所ではない。 松尾芭蕉の世界をあの小さな場所に表現したものであり、様々な設備を備え、モニュメントとしての機能も有している。自分たちのまちの誇りとして来街者にも味わっていただくことをおもてなしとしていきたいということを理解いただきたい。</p>

項 目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	産業振興部内でこの問題をどうやって進めていこうかという会議をしているのかを伺いたい。庁舎が移転して市街地の状況はさみしくなっている。阿山も合併して機能が移転したが移転後は閑散としている。阿山で説明するなら阿山の話もしてはどうかと思う。	部内での協議については、担当課は市街地の賑わいづくりは中心市街地推進課、忍者関連は観光戦略課となっている。部内で共有しながら周辺部の賑わいも含めて検討しており、周辺部に対しては山村振興の視点から支援を行い、南庁舎を情報発信の場所としていきたいと考えている。伊賀市の中を巡っていただくことが目的なので、市街地だけではなく市内全域に周遊していただけるように部内で検討している。 丸柱地域にお住いということでこの事業をリンクすると考えている。合併後15年が経過し、そのとき生まれた子どもも中学生になっている。旧郡部のエリアにとらわれがちだが、伊賀市民としての視点で進めたい。 南庁舎の利活用は市街地だけの問題ではなく、周辺地域との連携をとるためのゲートウェイという位置付けが大事であり、まず拠点に訪れていただいた方がそこで情報を得ていただき、各地に行っていただくイメージである。 さるびの温泉に忍者体験施設を作ろうとしているし、丸柱地域についても伊賀焼の里としてネットワークを作っていく必要があると考えている。 2020年には4,000万人、2025年には6,000万人のインバウンドが予想されている。これらを受け入れる体制を作っていかなければならない。市街地だけではなく空き家もたくさんあるが、負の遺産ではなく賑わいづくりの資産と考えて有効に活用していきたい。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	南庁舎の機能配置を見て、これを一体として総合的に運営するために責任者を一人おいてその中に組織があり、有機的にシステムのやっけていくことが重要であり、ばらばらにならないような運営の観点を持ってほしい。計画と目標があり、目標を達成するための手段がある。達成率やどこがダメだったのかなどを明確に広報等で知らせしてほしい。パブリックコメントについてもしっかりと資料があることが前提。市長に対して、議員に対してのパブリックコメントも必要であると考えているので、広報誌もなかなかじっくり見ないので、特別にチラシ等を発行して市民に知っていただくようにすべき。公開討論などをやって堂々と話をして合理的な結論を出すべき。	リノベーションにご理解をいただいていることに感謝する。これからの課題としてマネジメントは重要と考えている。どのように、誰がやっていくのかについては専門の方の意見も聞きながら構築していきたい。コンテンツについては様々な意見も聞きながら盛り込んできた経緯があるので、運営に関してもしっかりとチェックしていきたい。市民と行政の在り方についてはまさに自治のあり方であると考えている。新市建設計画を作り直す中で、地域、自治協、支所の在り方などどうすればいいのかをこれからやっていくことになっているので、しっかり検討したい。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて		パブリックコメントの在り方について、議会からも市民との情報共有の在り方などの意見ももらっている。市民と情報共有を進める中で広報誌の発行やパブリックコメントなどをやってきたが、意見が全然出てこなかったりすることも多いため、重要な計画などはタウンミーティングなどを実施すべきという意見ももらっている。 若い世代は市の広報を読んでくれず、インターネットが多い、逆に高齢者はインターネットを使う方が少ないといったようにニーズは多様になっている。 一番身近に共有するためにはタウンミーティングなどでみなさんと顔を合わせるのだと考えているので市民会議などはいいいアイデアだと思う。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	東町で花屋をしている。いままで観光一辺倒の政策はそれでよかったと思うが、観光で暮らしていけない生活をしている者にとっては観光だけでは関係なく、郡部も含めて置いて行かれていく感覚がある。市民目線での政策が必要と考えていて、農村市場、道の駅などは各地で集客がある。有名建築物とコラボしたら話題になるのではないかな。解体するかどうかの話があったが、よく考えると有名な建築家の建物であれば使えばいいと思う。観光目線だけでなく住民が買い物に行けるような場所を作ってほしい。農村郡部の魅力も伊賀市にはあるので、全体の魅力が集まる場所がよい。ひぞっこもあるが、まちなかの方はそこまで行けない方が多い。大きな視点に立つと南庁舎、ふれあいプラザに農村市場を拠点として整備して地域のみなさんの出店場所を作り、地域の魅力を発信することで、地域も潤うのではないかな。観光で来訪する方も、大根ひとつでも伊賀の魅力になる。同時にコミュニティバスを増発する、住民の生活重視の政策に重点を置き、まず住民が満足できれば観光客にとってもいいのではないかな。3年前から同じ話をされていて、ゲートウェイ機能を持たせるなら提案の機能ではないほうがいいと思う。農村とのタイアップにより全体が潤うし、観光客も満足する。さらに拠点は単独ではなく複数あるほうがいいと思う。まず住民が稼げて、市民が潤うことが大事で、視点としてはこれまでと逆になるが魅力アップにはいいと思う。	様々考えていただき、提案をいただいた。ふれあいプラザについては、まだ建物はそのままではないが、みなさんが買い物できる場所はしっかり担保しておきたいと考えている。もうひとつ、まちなかにはたくさんの方が来てくれることが大事、交流人口を増やす、住んでもらうといったことがあるが、空き家が増えてきており負の遺産であるようにとらえられるが、逆転の発想で外国人にとっては日本の日常生活に魅力があり、端的なものは飛騨の高山、普通の店に比べて、田舎暮らしを体験することでたくさん外国人が来ている。伊賀でも何気ない私たちが暮らしてきた日常が魅力と考えている。JR西日本、NOTEと連携して町家ホテルを作ろうという動きがある。単体ではなくいくつかの町家を活用してホテルにして多くの人に来てもらう。それと合わせて高齢者に向けては社会インフラも含めて整備しなければいけないと考えている。観光というのは思いもしないものが観光につながることもあり、南庁舎をゲートウェイにしてさるびの温泉に行ってもらおうとか、JAL、三重大とも連携している丸柱へ誘導するなどの方策がある。そんな中で花を買ってもらおうこともあるだろう。要は一日も早くということだと思う。発想としては大変面白いと思う。

項 目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	リノベーションについて初めて聞いて、いろんな意見があると思うが、耳に入ってくる意見としては新しいもの、防災の拠点としてほしいという声を周囲でたくさん聞くので、リノベーションについては反対であることは記録に残しておいてほしい。 この場で討論するつもりはないが、タウンミーティングの中で反対という意見があったということを知りたいし、議会などの答弁でおおむね賛成であったということがないように願いたい。	南庁舎については広報紙にも掲載しているのですがまたご覧いただきたいが、大事なことは19万人の賑わいが消えたという現実があり、早急に賑わいが必要であるということ。 新しいものを建てればよいという意見もあるが、市民に負担をかけず、最大の効果を得られる提案と考えている。建て替えるとなれば設計、発掘調査、工事など余計な時間がかかることになり、その間にも賑わいが消えていく。 もう一つ申し上げておかなければいけないのは、我々当事者ではなくイコモスという外郭団体から残すべきものであるというお墨付きをいただいたので、それをプラスに捉えて将来の私たちの誇りとして大切にしていかなければならないと考えている。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	南庁舎の利用について、今日の参加者で国立西洋美術館をご覧いただいた方はどの程度いるか。また、東京文化会館をご覧になられた方はいるか。周辺には博物館があり、動物園がある。さらに桜の時期はきれいで、西郷像や不忍池などがあり、様々な名所があり一体の中でこれらの建物が生きてくる。伊賀市の場合は建物だけ。そんな中で残す価値があるのかと思う。 今後どういったことで利用するのかかわからないが、全体の中で見ていく視点も重要にされたい。	上野の建築群も日本の20世紀遺産に選ばれており、伊賀に親和性があると考えている。伊賀市においても南庁舎をベンチマークとしてみなさんに喜んでいただきたいと考えており南庁舎も大事にしていきたい。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	南庁舎について、早く進めなければならないのはみなさんと同じ思い。 今の建物価値も感じるし、心配事としては使い勝手などもある。 平行線のまま続けば伊賀市の衰退の象徴になってしまうので、それだけは避けてほしい。 早く進めるためにどういう方法で進めるのかを聞きたい。例えば住民投票。 少なくとも今から設計になれば空白期間が空くので、その間の活用がなんとかできないかを聞きたい。	心配いただきありがたい。 伊賀市にとっては喫緊の課題であると考えている。 ダメだった場合の話であるが、現在議会であと2、3人で可決となるのでしっかり説得をしていきたい。 また、空き家のままではもったいないということであるが、活用について研究したい。少なくともお城のまわりイベントは継続していきたい。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	市長の説明の中でわからない部分があったが、四十九町の庁舎はいつ庁舎になったのか。去年の1月現在では丸之内に庁舎があった。説明の中では1月4日とあったが、インターネットでは12月29日から守衛業務などが開始となっていた。どれが正確なのか教えていただきたい。 東町の話があったが、法律に基づいた行政の原理があると思う。手続法、情報公開法などがあり、自治基本条例もその趣旨は踏まえていると思うので、地域への説明を省略することがないよう願いたい。 市長の発言に厳しい財政の中無駄のない、持続可能な行政運営という話があったが、大事なのは自主財源のことで、交付金や起債ではなく自主財源はどうなるのか。 丸之内の庁舎が移転したことで市税が財源となるが、固定資産税の土地が相当なウェイトを占める中で地価が下落していくのではないかと。これを年間にすると大きな金額になるのではないかと気がかり。 例えば名張市で課税しているということを知ったが、伊賀市もそういった方法を検討することになれば上野の人にとっては大変迷惑なこと。 都市計画税の大半はゆめが丘の方に使途されたと聞き、市街地には使われていない。 そんな中で、固定資産税の今後の見込みとして考えうる下落はどの程度になるか。	庁舎がいつから四十九町に移ったかについて、法令上は位置条例があり、施行日は1月4日。1月3日までは丸之内で戸籍等の受付業務を行っていた。 固定資産税については、3年に一度評価替えがあるが、年々2%ずつ土地の価値は下がっている。人口が減ると土地を必要とする方が減り、価格が下がるのが現状で、上がっている他地区では移住者が多い、賑わいが多いということで地価が維持される傾向にあるので、賑わいづくりが必要であると考えている。 ご心配のとおり人口が減れば固定資産税が減るため、賑わいを取り戻し、地価を維持したい。若者が出ていくことに歯止めをかけたい。 自主財源という観点から、若い人たちが働いてもらう場所を作る、企業の誘致や本拠の移転などの努力も必要と考えている。具体的に企業集積地について段取りを進めている。 都市計画税については徴収するつもりはなく、あるものをしっかりと活用して自主財源に結び付けていこうと考えている。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	多様な主体が協働意識を持つことが大事だと聞いたが、次の場合の考え方を聞きたい。 東町に計画されているポケットパークについて、個々の問題は申し上げないが、市の方針を聞きたい。 根底について、信用金庫の跡地について地元と市が話し合うことがなかったことに尽きるのではないかと考えている。 平成29年8月に中間的な説明があり、自治会長として出席してトイレのないポケットパークの絵をもらい、トイレについては口頭での説明だった。その後話し合いの機会があると思っていたが、議会で予算が可決されたという話を聞き、さらにしばらく何もない期間があり、最初の会合から1年3か月後の平成30年11月で、設計が完了した後の報告会だった。 伊賀市の第1期中活計画などの関連文書にあるが、ポケットパークなどの設計協議において市民参加型のワークショップなどをしていくこととなっており、ふたば公園などでは実施されている。 しかし東町のポケットパークでは話し合いの場はなかった。 一昨日副市長も参加いただきやっと会合もたれたが、十分対応いただけなかったことを回答をいただくことで終わったが、これが初めての意見交換で、それまでは何も提案できなかった。 伊賀市としては、ポケットパークのような自治協の同意対象ではないような小規模のものは地域への説明は不要で、決定後の方向でよいと考えているのかを聞きたい。	一昨日は熱心にご議論いただきありがとうございます。 我々としても反省すべき点があると考えているが、縷々説明したとおりで、丁寧な説明ができたかというところ（じくじ）たる思いがあるが、一定の説明はしてきたと考えているのでお汲み取りいただきたい。 話し合いの中で何も聞いてくれなかったというが、これから協議できる部分は対応していきたいと考えている。
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	一昨日の会議はいま回答いただいたとおりでと思うが、これからのについては同じような方針で進むのかを教えてください。	これからも丁寧な説明を心掛けたい。まちづくりというのは市民との協働であると考えている。

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	<p>ポケットパークの近隣に住んでいる。東町としては、トイレは必要であると考えている。全部が全部反対しているわけではない。西部地区が中心都市街地に位置付けられていることに感謝したい。さらには、もっとトイレの施設を充実させたい。歴史的なまちづくりに取り組む中で、俳句のユネスコ登録を目指していることをトイレに充実させてはどうか。南からくると玄関口になるので、ハイトピアにディスプレイをつけるなど魅せる工夫をしてはどうか。今は見せ方が下手。地価の話があったが、通行量調査をしているが日曜日は通行量が少ない。イベントの日などに調査を実施するのはどうか。（芭蕉祭、フードマーケットの日など）</p>	<p>トイレ整備はしっかりと進めていきたい。場所的に面積は限られているため、提案の内容を実現できるかを考えていきたい。交流人口を増やしていくためにシンボルが必要ということで整備を進めており、機能としてトイレが必要と市で判断した。これからしっかりと進めていきたい。通行量調査については毎年同じ時期に同じ場所で調査を実施することが基本になるので、比較するためには例年と同じ予定で実施していきたい。また、調査結果は中活計画の評価に使用しており、地価に影響することはない。</p>
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	<p>庁舎移転について質問したい。庁舎にかかわっては、新聞記事によると9月に予算否決関連の記事がたくさん出ている。さらに12月にも議会との対立は継続して報道され、新庁舎開庁は道半ばで、南庁舎が利活用できて完成だと発言されている。広報紙で周知されているが、南庁舎の利活用、保存に関してはトランプ政権と同じようなことが起こっているのではないかと。一方で市議会だよりを見てみると、合法的ではあるが、再議という小さい子どもが駄々をこねているような方法はルールに違反するように個人的には思う。伊賀市ホームページで議会の音声データがホームページで出ており、各部長らの答弁も聞かせてもらっている。新聞記事の事実、広報紙、市議会だよりに掲載されている事実についてどのような見解を持っているか。</p>	<p>様々興味を持たれていることに感謝したい。南庁舎については1期、2期ともに選挙公約に保存活用をあげてきた。その後、議会との関係性においては、庁舎が使えるのか、お金がかかるのではないかなどの疑念が出てきたので、都度真摯に向き合い、改修に耐えうるという回答も得たし、同規模の建物を新築するよりは安価で、最小の投資で最大の効果があると伝えてきた。建物の価値についてはドコモモ、イコモスなどからも残すべきであると評価を受けている。また、再議については地方自治法に明記されたことであるので、反対議員にとっては納得しにくい部分もあると思うが、手法として後ろめたいというものではない。こうしたことをまとめて1月号の広報に記載したということ。</p>
	<p>南庁舎と中央公民館は坂倉順三の建物であり、公民館解体の際に反対の意見があったのかどうか。本来なら北庁舎、中央公民館、南庁舎が一体である。上野市史を読むと南庁舎より早く完成し、当時は鮮やかな色彩であったと読んだ。南庁舎と中央公民館の兼ね合いで、公民館の解体の際に反対運動があったのかを聞きたい。</p>	<p>反対運動については私自身、市民団体の延長線上で選挙に立候補し、現在に至っている。中央公民館は、建築的にも賞をもらったりしているが、私が着任するまでに解体されたということで残念なことだったと思っている。</p>
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて/①新市建設計画	<p>生産年齢人口が減少し、財政的に大変という中で賑わいを取り戻す方法を考えていただいていることについてはありがたいし、地域にとっては文化的な面で尽力いただいていることはありがたいと思っている。財源がない中、工夫するために残事業の実施に特例債を充てることに関しては異議はなくそのようにしていただければいいし、その大きな事業はまず市街地からということで上野周辺に傾倒していることにも理解できる。南庁舎に関しては福祉、文化、交流の場もあるので人が集まることについてはいいと思う。しかしリノベーションについてはそこにこだわらなくても賑わいづくりの方向性が見いだせるのであればいいので、早く進めるべきだと思う。賑わいを作っていくためにはまず中心部をしっかりともらすべきだが、その後はしっかりと地域も支援してほしい。いがまちには柘植駅があり、しっかりと交通手段も整っているので、市街地との連携も含めいがまちには可能性があると考えているので、地域拠点をしっかりと作り、どのようにまちづくりを進めるかも考えていただきたい。ふるさと会館の話も出たが、人権教育については市全体でもやっているが、それぞれの地域でがんばっているからこそ今の状況があると思うので、例えばいがまち同研も研究大会では500人を集めて開催してきたことはその成果である。来年はそこが使えないので阿山のさんさんホールを使うことになっているものの、将来的にはそこもなくなる可能性があり、どうしたものかと考えている。地域で作りに上げてきたもの、大事にしていくべきものと考えていただき、せめてどちらかでも残してほしいのが私の思いであり、もう一度しっかりと検討し、可能であれば①新市建設計画の延長で実施する事業に加えてもらえればと思っている。壬生野の学童保育も不安な状況となっているので、しっかりと地域の現状を確認いただき、少しでも改善できる部分があればいいなあと思っている。</p>	<p>すぐやらねばならないこと、もう一度地域に光をあてることについて指摘をいただいた。大変大事なことであると考えている。財政縮小の話ばかりするところが沈んでいく気がするが、伊賀市は可能性に富んだところであり、いがまちにおいてもポテンシャルが高いと感じている。例えば春日神社周辺、コメ作り、牛といったものは今後地域の底力を作っていく可能性がある。いいご指摘をいただいた。一番大事な単位は地域であり、地域が元気になることで全体が元気になると考えている。</p>

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて／①新市建設計画／②キラッと輝け！地域応援補助金	<p>南庁舎、合併特例債の話があり、市の建設資金として投入するという話。南庁舎が10数億と聞いているが、それにも充当されるのだろう。その他の使途が箱物整備に使われていくことも大切であるが、地域振興やまちづくりという観点がどんな形で入れていただいているか聞きたい。</p> <p>きらっと補助金についても、包括交付金の削減が少しは緩和されたようであるが、大山田でも3自治協で話をしていくことになるが、阿波だけでも百数十万円の削減となり、自治協の中で公益的な5部会の事業そのものの額が削られる額面となる。</p> <p>今までどおりの自治協の支出を踏襲しようとするといずれにしても事業費を削らなければならず、従前の事業に影響が大きい。そんな中できらっと補助金の話があるんだと思うが、これは3年間限定で継続性がなく、その間に地域で自主自立を模索せよということもわかるが、現実的に自治協の中で行われている事業は、合併以降継続されてきたものもあり、そうしたものにもメスを入れる必要が生じてくるが、きらっと補助金でそれが補填できるかという点で困難だと思っている。</p> <p>これについて、検討はするが、市長からこれで辛抱してくれという一言がほしい。財政緊迫の中でみんながそれぞれ我慢することは説明の中で聞いているが、決意を聞かせてほしい。これから厳しい自治協運営になるが、市長就任の折から多核連携の話が出ているが、地域という言葉の意味が、市街地と郡部で施策が偏重しているのではないかと実感している。均衡ある発展を遂げるための施策がなかなか我々には理解できない部分もあるので、もう少し地域に目を向けてもらうような施策をお願いしたい。</p>	<p>地域に格差をもって施策を講じたことはないし、対等合併をしている。伊賀というところは市街地と郡部がお互いに足らざるところを補い、ともに成長し、繁栄をしてきた歴史があり、その関係性がなくなると市街地ということもあり得ない。</p> <p>自分も上野の人間であるが、もとをたどれば郡部出身の人間であり、他人ではない。むしろ気がかりなのは青山地域が別のシステムで動いていることに違和感がある。</p> <p>みなさんに辛抱をお願いしたいというのはその通りである。行政というのは政府、構成員が皆さんとなっている。行政はその調整機関としてあるので、地域からこうしたいという話があれば、しっかりと議論して仕組みを変えていけばいいと考えている。</p> <p>その代わり財源も大事であるし、優先順位をどういう風に設定していくのかを納得するまで考えていく必要があると考えている。</p> <p>私たちは様々な観点から33%を削減しているが、キラッとを創設して皆さんに頑張っていたきたいと考えている。これが金科玉条というわけではなく、さらに良くしていきたいと考えている。</p>
③庁舎移転後の市街地の賑わいづくりについて	<p>南庁舎については、周辺のものから見るとコンパクトな施設であるべきではないかと思う。リノベーションもいいが、もっとお金のかからない方法があるのではないかと考えている。</p> <p>地区振興補助金がなくなるのではないかという話も聞いている。</p> <p>地域が過疎化していくなかで、まつり等は地域の唯一といっているほどのコミュニケーションツールであると考えている。ぜひとも継続させていただきたいと考えている。</p>	<p>地区振興補助金については平成31年度は継続、今後については、また、みなさんと検討していくことになると考えている。</p>
④その他	<p>地区振興計画はどうなるのか。総合計画では地区振興計画も平成31年度までとなっているが、それで終わりか。</p> <p>その点が地域としては心配、地区連合も地区振興計画もなくなることは心配。</p> <p>今までやってきたことをぶつ切り切ることだろうか。</p> <p>青山地区では2つ以上の自治協で取り組みを行い、軌道に乗ってきた経緯がある。</p> <p>各地区で地区振興補助事業のやり方が違うようにも聞いているが、要綱に従うなら同じようになるのではないかと、その辺を詳しく説明願いたい。</p>	<p>地区振興計画は新市建設計画に基づき作成いただき、支援をしてきた。</p> <p>今回新市建設計画に関する諮問をしているが、2年延長にあわせて地区振興補助金も延長するののかという点については現在検討中であり、計画に付随して伸ばすことになるのか、方向転換するののかについては内部検討となっている。平成31年度末までのため、来年度早い段階で情報提供したいと考えている。</p> <p>2年で終了ということで進めてきているのでご理解いただきたい。</p> <p>地区振興補助金については、地域の祭りなどを支援して地域の連帯感を上げようと支援してきた制度。直接は行財政改革推進課。地域包括交付金と合わせて説明すると、地域包括交付金はこれまで増額をしてきたが、これは3年限りの支援と説明してきて、この間に地域づくりの基盤をしっかりと整えてもらおうとしてきた。その後は見直しすることになっていたので、40%の削減を目指して説明を行うこととし、40%の根拠としては類似団体にならったこと。しかも3年で40%と厳しい設定としていたが、地域で説明する中で削減期間の延長、削減率の緩和、頑張っている自治協に対しての手厚い支援などの意見があり、5年間で33%の減額となった。これに加えて新しい補助金を創設することにして対応しようとしている。</p> <p>地区振興補助金については、平成31年度で終了となっているが、最終的には皆さん方の声を聴きながら進めることになっている。</p>
④その他	<p>LEDに関してリースの情報を得たが、法人に限るということになっている。</p> <p>鈴鹿市で行政がやったことを聞いているので、情報収集に行くが、可能な範囲で行政の協力をしてほしい。</p>	<p>市としても鈴鹿市へ照会して情報収集している。</p> <p>様々な手法を検討したうえで、自治協がどれだけ参画してくれるかによるが進める方向で考えている。</p>
④その他	<p>自治協の連合会で地区振興補助金の使い方を毎月検討しながら進めている。連合会の中でみんなの意見を聞きながら事業を設定して進めていることは地域の活性化につながるのだと考えている。</p> <p>今の説明では自治協に委ねられている部分が多く、運営が大変になり役員のなり手がいないことが不安に感じている。次の世代の若い者がいない状況の中で将来的には自治協の運営すら危ういのではないかと考えている。</p> <p>地区振興補助金については終期を設けるのではなく、内容を見直して継続を希望する。</p>	

項 目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
④その他	<p>桐ヶ丘を通る行政バスと三重交通は同じ場所を通過して、昔は三重交通の定期券を持っている人が行政バスに乗れるようになっていたが、最近はそのができず効率が悪くなったと聞いている。 電車との連絡も悪いので、昔のように併用ができないか。</p> <p>乗り間違えて高い料金を払うこともあると聞いているので、対策をお願いしたい。</p>	<p>行政バスはどこまで乗っても同じ料金、三重交通は距離料金で料金体系が異なるため併用はできない。 乗り継ぎの時間などについては、できる限り乗り継ぎしやすいようにダイヤ改正を三重交通に求めているが本数の関係もあって難しい中、努力している。 行政バスは通学も兼ねており、学校との調整もしているため、市民にとっては不便な面もあると思う。</p> <p>同じバスを使っているのでも乗り間違えがあるので、運転手にアナウンスするようにする。</p>
④その他	<p>伊賀南部クリーンセンターについてですが、青山地区を除く市北部地域のごみ処理について、使用期限は15年間の協定を結んだと聞いたが、南部地域はどうなるか。</p> <p>協議が始まった時期に青山として意見を言いたいので、いつ机上に乗るのかを聞きたい。</p>	<p>南部クリーンセンターの今後の計画について、南部は平成36年2月で地区の協定期限がくると聞いている。南部については南部環境衛生組合として名張市が入った中で検討する必要があり、次年度、2年後ぐらいには衛生組合として今後どうするのかの検討を名張市も含めて進めると聞いている。 将来的には伊賀市、名張市の合同という展望も含めて方向性を持っている。 可燃物について青山地区を除くとなっている点について、青山地区も緊急時にはさくらに搬入したいという協議を花垣地区としてきたが、逆に北部のごみを南部に持ち込めないように、南部のごみを北部には持ち込めないことになっている。地元の役員たちと協議ができている。</p> <p>名張が大半を握っており、名張市の方向性がまだ出ていない。名張市の方針が判明した時に伊賀市としての体制をどうしていくかを考えていく必要がある。</p>
④その他	<p>ごみの収集について、一般ごみは週2回で祝日は日がずれる。他市では曜日ですでることはない。 北部では祝日ですでる、南部は祝日でも収集している。この点を改正願いたい。</p> <p>伊賀鉄道について、四十九駅に補助金が出ているはずで、存続にも補助金が出ている。 沿線に在住する職員は伊賀鉄道を使用するのが当然、37名が増えたという聞いてはいるがもっとそうすべきではないか。</p> <p>持続可能な伊賀市を作るなら子どもたちが安心安全に生活できることを優先すべき。</p>	<p>自身も生活者として困っている。 業者にできることが、なぜ市ができないのかが不思議。 生活者の利便性に沿っていないのは改正したい。</p> <p>駅から歩いて10分以内の職員は鉄道を利用するようと言っている。37人は想定を下回っているのでもっと利用促進を図るべき。 職員組合との協議も必要であるがもっともな意見だと思う。 市の職員に継続的に啓発していく。伊賀鉄道の利益を上げるような取り組みを進めたい。</p>
④その他	<p>農免道路下川原交差点の件 以前死亡事故もあった場所で、川上ダムの骨材運搬車が通ることで心配している。 白線の引き直しを要望しているが、予算がないとの回答で待てども予算化されない。なんとか早急に対応されたい。</p>	
④その他	<p>全般にかかわることで、島ヶ原の自治協は昔の村と同じエリアであり、今後も新しいまちづくりプランを作って市に提出する予定としている。 その中で、少子高齢化、人不足が大きな課題。高齢化は43%と高く、介護、農業など様々な担い手がない状況となっている。第1次産業については団塊の世代を中心に行っており、離農に向かって進んでいる。 加えて800軒のうち50軒が空き家となっている。7軒が空き家活用されていて、人口推計においては地域内で予想より多い水準で保たれている。これは空き家活用の効果があったし、Uターンで戻られる方、農業に従事される方がいるものの、その後の農地をどうするかということについても課題となってくるだろう。 他の自治体で行っている移住者への補助金、出産への補助金などを充実させてもらうことで、人口推計を上回るのではないかと考えている。 福祉面については、やぶっちゃんの健康棟は当初市民の健康のために年間2万人以上の利用があったものが、3年前から委託がなくなって利用されなくなっている。 伊賀市全体の老人のための施設充実という点から、再度の活用をお願いしたい。</p>	<p>様々な意見をもらった。 移住については三重県下でもトップクラスの実績があり、維持していきたい。 移住者に対する補助金は実際にあるので活用いただきたい。 まめの館については全体の中で考えていきたい。 移住の補助金に対して子育て世帯の加算がある。</p>
④その他	<p>耐震等の制限があり、島ヶ原の空き家は補助金活用できない物件が多いと思うが。</p>	
④その他	<p>福祉センター（清流）の継続を願う。 南庁舎をなんとかしたいという思いはよくわかるが、多くの建物がなくなっている。清流についても売りに出されている中で使わせてもらっている。 清流がなくなることは大変だが、市も社協も地元もお金を出すことができない状況。福祉に関わる問題は高齢化が進む中で命に関わる問題となっている。地元としては、市として存続させてほしいと考えている。 福祉にかかわる問題に対してお金が出ないことに対して、何とかしてほしいと願っている。</p>	<p>財源が一番大事だと思うが、島ヶ原には財産区があり、地区に収入がある仕組みになっている。現在用途残を積み立てており、地域の福祉のために財産区があると思うので、財産区から出金をするなど地域でしっかりと有効な使い道を考えてほしい。</p>

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
④その他	<p>財産区のお金はいくらでも出るものではないのでは？</p> <p>それが少ないと感じている。</p> <p>市街地だけにお金をかけているように感じる。</p>	<p>財産区には管理組合があり、いったん市の会計に入れていただきそれを対象に支出することになると思うので、管理組合としっかりと話をしていきたい。</p> <p>現在、財産区から清流に対して支援をしている形になっている。</p> <p>仕組みとしては出せることになっているので、地域と話していくことだと考えている。</p> <p>そのようなことはなく、対等合併なので均等に配分していると考えている。</p>
④その他	<p>近々にあったことを事例にしてお願いをしたい。</p> <p>あわてんぼうで女性がかんばってなんとかやってきた。6年目を迎える。</p> <p>新庁舎ができたときに、弁当を配達することが夢だった。結論としてはそれができなかったが、それに対する苦情ではなく、その過程の中で新しい仕組みを作っていくことが伊賀市が元気になることだと思うが、エネルギーが必要になる。新しいものを取り入れることで伊賀市がいきいきとしてくる。</p> <p>支所を通じて市の熱意が薄れていくように感じていて、従来の事業を無難に続けるだけで、新しいことにチャレンジする雰囲気がないように感じている。</p> <p>新しい取り組みにもう少し目を向けてくれたら地域の人が元気になるのではないかと考えている。</p>	<p>弁当の件について、結論が出たとは聞いておらず、弁当を入れたいところはたくさん来ていて、整理をしなければいけないということは聞いている。</p>
④その他	<p>10食程度入れることを希望している。</p> <p>ニーズがないという結論だった。</p> <p>組合が対象。</p> <p>市役所の組織は民間にはわからないので、その思いが伝われば良いと思っている。</p>	<p>組合の売店は組合が選んでいる。こちらとしては期待している部分である。</p> <p>他の団体でワンコイン弁当などを入れていることもあるようなので、職員の任意でできるので、チラシなどの配布は自由にさせてもらうことはできる。</p> <p>組合に置くのとは別だと考えていただきたい。</p>
④その他	<p>要望になるが、意見票が資料としてついているが、選択肢に19歳～20歳とあるが、そうした人に参加周知ができていないのか、いろんな世代に情報が伝わるように工夫されたい。</p> <p>広報紙への掲載もひとつであるが、それだけでは十分ではない。</p> <p>行政の考えが伝わり、市民の声を聞いてもらえる場をもっと作るべき。</p> <p>特に若いものが結束できる場を設けてほしい。</p>	<p>手法については検証したい。</p>
④その他	<p>角度を変えて、意見の交換をしたい。</p> <p>明石市の市長が辞任するという報道があった。あの暴言についてどのように思うか。</p>	<p>物事の切り取り方で違うように見える。前後の脈絡を見ると市民のために憤ったもの。</p> <p>実績もある方なので残念に思う。</p> <p>もって他山の石としたい。</p>
④その他	<p>合併特例債の延長、プランの変更については変更し延長する中でしっかりと実施につなげていただきたい。</p> <p>しかし、合併して15年一体感はまったく感じていない。市長は同じ伊賀市民だと言うが、まったく一体感が感じられない。</p> <p>今回のプランについても大半が中心市街地の事業であり、旧町村を対象とした事業はほとんど示されていない。地域が主体、分権まちづくりということを各部署で具体的に示していただきたい。</p>	<p>交通対策について、人口減少社会の中、各バス路線の利用者が減少している。廃止代替バス路線も7路線あり、行政負担も増えてきている。予野線などは1台当たり0.8人しか乗っていない乗用となっている。</p> <p>今交通網再構築計画を作って取り組んでいるが現在4年間、あと2年で新たな計画を作らなければならないが、その間に利用者はどんどん減っている。伊賀鉄道の利用促進を基幹とし、採算路線で交通ネットを作ろうとしてきたが利用者が減ってきている。</p> <p>昨年からは地域のみなさんが地域で何が使いやすいかを考える中で地域運行バス、お買い物バスなど日常生活に寄り添える制度も導入している。神戸地域で第1号。</p> <p>人口が9万人、2030年度には7万人、地域に密着してみなさんを守るための交通網をしっかりと考えていく時期であることは認識している。計画の見直しの際にはみなさんの意見をしっかりと聞きたい。</p> <p>支所間を結ぶ場合、同じように利用者がどれだけいるのかが問題となってくる。既存の交通網を乱す恐れもあり、既存の交通網を活かしつつ交通不便地域を解消するという難しい問題はあるが、次期計画に向けて進めたい。</p>
④その他	<p>また、伊賀市が大きくなったことで交通不便地域、交通弱者対策などがあまり進んでいない。3キロ以上はスクールバスを運行することになっているが、行政バスの在り方はどうか。</p> <p>本庁、支所間の直接ルートの開通などで一体感を示せるのではないかと。具体的に方向性を示されたい。</p> <p>交通政策課から文書で照会もあったが、直接顔を見て意見交換をすべき。</p> <p>働き方改革というが、新庁舎は夜遅くまで灯りがついている。就業規則的にどうなのか。DMGでは計画生産、残業なし、有給全消化は当たり前ではないか。</p> <p>また、セクハラ、パワハラなどが口頭注意などで終わらないようにしてほしい。</p> <p>人が輝くための具体的な施策を示してほしい。</p>	<p>今バスの問題が大きいと言われることが多いが、バスにも乗れない交通弱者などのことを考えると、タクシーなどを乗り合わせるチケットなどを配布して、よりきめ細やかな運行をすることがニーズに合っていると思うが、課題は事業者がいるかということ。</p> <p>働き方について、時間外が多いのは事実であるが、昨年より若干減っている。部、課によって偏りがあるので、縮減に向けて徹底していきたい。</p> <p>パワハラ、セクハラについてももしっかり対応していきたい。</p>

項目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
④その他	<p>今回の件に直接関係ないが、養鶏場の臭いの問題。 DMGの協定を締結いただいたことで、地域としても期待している。が、新堂駅付近は養鶏場において大変困っている。正月帰省の際鶏糞の臭いに対する苦情があり、あけぼの高校の生徒も電車を降りると臭いと聞く。 せっかくたくさんの人を集めようとしている中で臭気の問題があるといけないと思う。 養鶏場の環境対策検討協議会を開催して検討しているが、なかなか臭いの問題がよくなる。伊賀市としても専門的な立場で環境改善を指導いただきたい。</p>	<p>昨年から環境保全協定の中で市も参画して定例会等に参加している。 昨年は設備も設置したが実際には改善されていないということも地域から聞いている。 今後も臭気の測定をしながら発生源を特定するなど調査の上指導していきたい。</p>
④その他	<p>伊賀鉄道の利用状況について、77名の対象者には乗るよう指示するぐらいのことが必要ではないかと思う。</p>	<p>ご指摘のとおりであり、指導を続けていきたい。</p>
④その他	<p>さんさんホールを残してもらいたい。公共施設最適化の対象となっているが、まだ起債が残っているのでその後でいいのではないか。ホールの使い方としていがまちとの共同で使っていくという方向で、残すべきは残していくということをお願いしたい。 高齢化の話があり、2030年で39%と予測されている。阿山では高齢化率が34.8%、玉瀧は41.5%と高く市長が言う以上に高齢化が進んでいる。 高齢化社会の進展に伴い運転免許の返納が進むと思われる。行政の公共交通が機能するように見直す必要があるのではないかと考えている。快適で便利で安全な乗り物の運行を検討願いたい。 財政難が理由で行政バスも減っている。3台⇒2台 阿山には3つの谷があり滋賀県などにつながっているが、阿山支所も保健福祉センターに入ると聞いている。この地域をどうするか、市街地の賑わいも大事なことでこの地域の賑わいづくりの話が全然伝わってこない。いつから移転するのか、どういう名称になるのかなどわからないことばかりで不安。まず阿山支所がどうなるのかを聞きたい。 この点については4自治協との協議を進めてほしい。 保健福祉センターに入る支所の名称は？課は？</p> <p>社協のデイサービスは4月に引っ越すと聞いている。この施設の設置目的は社会福祉の拠点と聞いているが、いがまちに移転してしまう。目的が違うので行政に乗っ取られたように思える。社協の営業能力を問われている時代だということ。だが、実際に高齢化しているのは郡部、周辺部なので、伊賀市として地域福祉を重視し、連携してほしい。</p> <p>スクールバスを廃止という報道があった。小学校の統合はスクールバスが前提で議論が進んでいたが、知らないうちに決められたような印象があり、住民との対話が欲しい。 スクールバスを使うということは体力が弱る、中学校になれば自転車通学になり危険が増すのではないか。中学生もスクールバス化を望む声もこれから出てくると思うので、検討願いたい。</p> <p>バスの件で小学校の統合を見直すという話も出ている。教育委員会、PTA、行政で統一した見解を早く出さないと親や子どもがかわいそう。 これからのことを真剣に考えて、統一した見解を望む。 2月15日に教育委員会がPTAに向けて話をすると聞いているので早く動きたい。</p> <p>第2次総合計画の最後にええやんプロジェクトが載っているが、なんか結果を出さなくてはいいけないのではないかと、結果、経過が明確になればほかのことも進むのではないかと。</p>	<p>さんさんホールについて、伊賀市には文化ホールが4つある。10万都市で4つの文化ホールを維持することは難しい数。他市と比較しても過剰。合併して過剰に抱えた公共施設を最適化しなければ、物件費が維持できない見込みの中での公共施設最適化計画。27年度から1期計画、32年度からは第2期計画となっており、2期計画の中でさんさんホールは縮小という方向が示されている。縮小の位置づけの中で、いがまちでも話しているが、廃止とは言うておらず、行政の関わりを減らして運営ができる状況であればそのまま使うことも検討しているところ。したがってさんさんホールについても民間や地域の力で存続していく方向性についてもあると考えている。 新名神の甲南インターから近く、さらに飛躍的にこの地域が脚光を浴びると考えている。ポテンシャルが高い地域であり、個別の施設ではなく面的な視点で総合的に活かせる方向で検討したいと考えており、来年度の予算がとおれば進めたいと考えている。</p> <p>その話は聞いており、社協はいがまちと一緒に経営をすると聞いている。</p> <p>公共交通の件について、阿山地域については行政サービス巡回車が走っているが、行政バスの中で阿山地域は収支比率が他地区より悪い状況となっている。1台あたり0.5人と低くなっており、公共交通として行政バスを残しつつ、スクールバスも運行するとすると、両者を混乗させるような方法が必要ではないかと考えており、具体的に進めるにあたっては地域のみなさんに意見を聞きたい。</p> <p>バスの問題について、教育委員会と交通部門の意思疎通が弱いと感じたため最近是一緒に考えるように指導している。</p> <p>結果については行政総合マネジメントの中で、ホームページ等に掲載しているがわかりやすく出すようにとの意見だと思うので、検討させていただく。</p> <p>毎年指標として実績を報告している。中には達成できているものとできていないものもある。達成できたものとしては移住相談の件数で大幅に相談を受けており、51人が移住され県内1位という成果が上がっている部分もある。逆に上がっていない部分もあるが、毎年成果報告をしているのでご覧いただきたい。</p>
③その他	<p>今の進め方に対しては非常に悪いイメージを持っている。市長と議員の対立だけではなく、行政がどのように役割を果たすか、行政の担当者が何をしたいか、議員とも話をして自治協なども巻き込んでいくべきだが、自治協から一市民の私に意見を求められたことはない。 自治基本条例は理想ばかり書いているように思う。 今後の運営に期待するとともに、南庁舎の具体的な運営方法があるのか。 様々な説明会などに出向いているが明確に答えてなかったことがある。しっかりと窓口対応する方の教育、指導を徹底されたい。 自治協も有効に活動するために市民会議室などを設けるなども検討されたい。</p>	<p>住民自治に関しては大きな支所、小さな本庁と新市建設計画に書かれたが、10年が経過して行政のスリム化という視点に立って、人口減少時代が進む中、行政組織もスリム化していかなければならない時代に入っている。 法律は5年延びたのに新市建設計画は2年しか伸ばさないのは、残事業と起債残額の見合い、もう一つは地域自治組織を見直す時期に入ってきたということです。新市建設計画を長く置いておけば15年前の計画に縛られてしまうので、時代の流れに応じた新しい計画を作っていかなければならない。支所、市民センターの在り方について現在検討しており、また地域をまわって直接ご意見を聞かせてもらいたいと考えている。</p>
④その他	<p>公共下水の整備、都市計画道路の見直しをぜひお願いしたい。</p>	<p>心強い意見だと思っている。 下水道は進めなければいけないと考えている。都市計画道路は廃止すべきところは廃止するよう指示していくところ。</p>

項 目	市民の皆さんからいただいた主な意見等	その際の回答要旨
④統括		<p>今日は熱心にご意見いただいたと思っている。 大事なことは様々な制度を活用しようとしているが、制度は地域の皆さんと作っていくもの。 伊賀市という地方政府をみなさんが担っていただいているので、交付金、支所の在り方などはみなさんとベターな結論を探っていくことが大事だと考えている。 イコールパートナーと考えているので、今後ともお願いしたい。</p>